

可動式

## GUブロック

NETIS

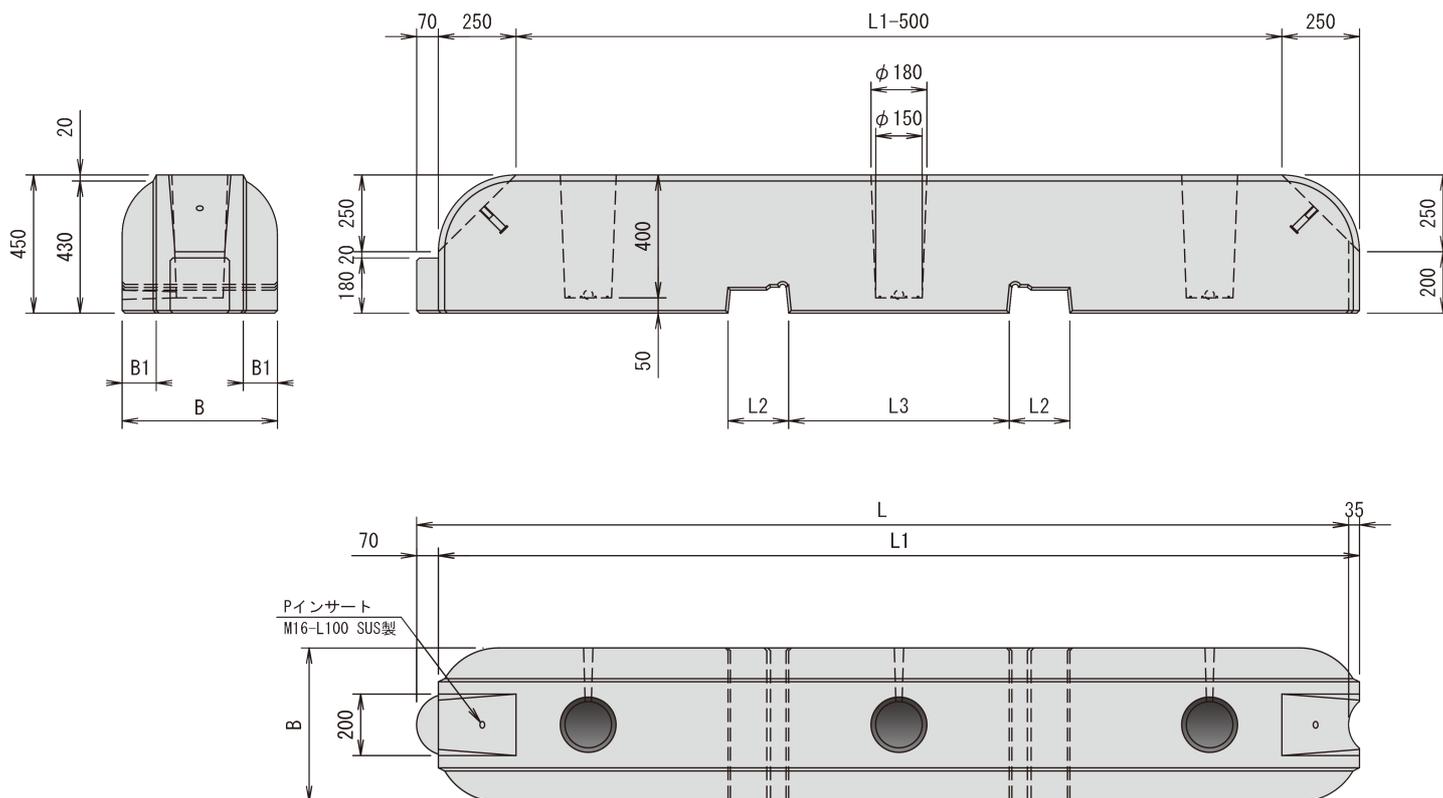
No. KT-160028-VE

## 特長

- 路面に置いて使用することを基本に開発した道路規制箇所等に用いられる置き式ガードレール基礎ブロックです。埋設、半埋設にも利用できます。
- 設置・撤去・移動を素早くできます。
- クレーン以外にフォークリフトでも行えます。
- クレーン作業でのワイヤー、ベルトスリング用の溝をズレ防止用に設けてあります。
- 支柱の差し込み孔には、底を設けて砂漏れを回避しています。
- ガードレールの支柱の位置決めをするためのガイドが底部にあります。
- 破損した場合など、実際に供用している場所での取替は、ブロック同士がプレート連結のため、連結プレートを外せば部分的に取外しが出来ます。
- 15度の角度範囲は可動します。それ以上は、ブロック同士が干渉して可動を抑制します。歩道側へ移動する量を制限する安全対策です。



# 形状寸法



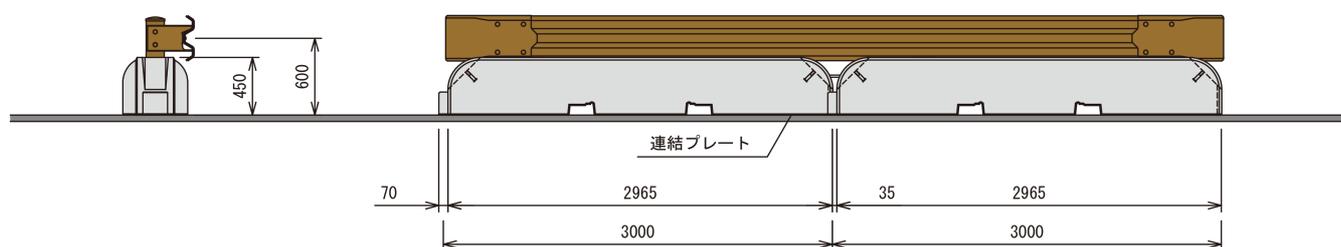
呼び名		寸法 (mm)						支柱部箇所数	参考重量 (kg)
		B	B1	L	L1	L2	L3		
B=400	L=3.0m			3000	2965		710	3	1095
	L=2.0m	400	60	2000	1965	195	355	2	710
	L=1.0m			1000	965		305	1	320
B=500	L=3.0m			3000	2965		710	3	1335
	L=2.0m	500	110	2000	1965	195	355	2	860
	L=1.0m			1000	965		305	1	380
B=600	L=3.0m			3000	2965		710	3	1595
	L=2.0m	600	160	2000	1965	195	355	2	1025
	L=1.0m			1000	965		305	1	455

●寸法・形状について予告無く変更することがあります。

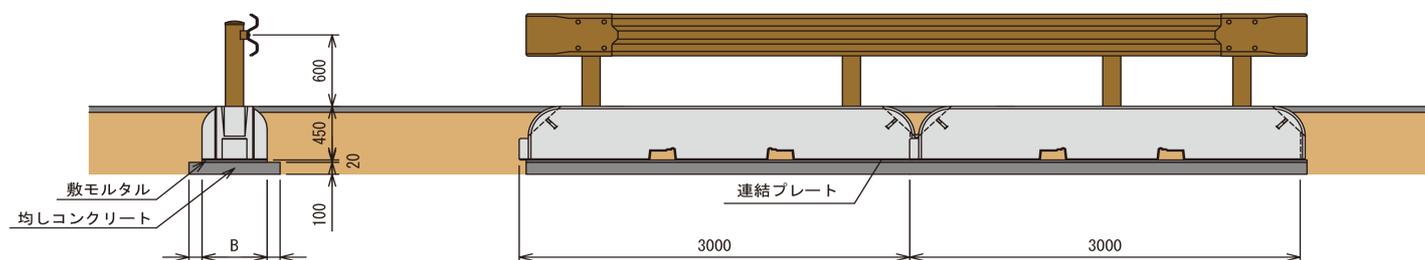


## 標準構造図

## 置式設置



## 埋設置



## 最低連結延長

- SC・A種の場合は連結用ボルトは強度区分8.8を使用して下さい。
- 参考図書  
防護柵の設置基準・同解説 ボラードの設置便覧 令和3年3月版  
車両用防護柵標準仕様・同解説 平成16年3月版
- 最低連結延長における摩擦係数は0.6を使用しています。

単位：m

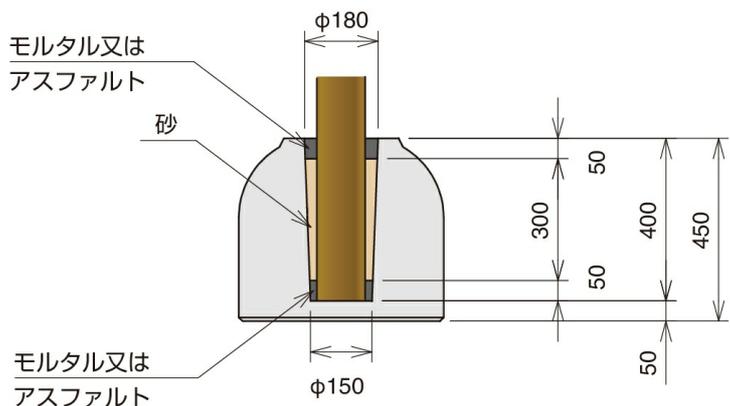
防護柵種別衝突荷重	呼び名	置式設置	埋設置
B・C種 P=30kN	B=400	36	30
	B=500	24	23
	B=600	17	18
A種 P=55kN	B=400	63	57
	B=500	42	45
	B=600	30	35
S C種 P=60kN	B=400	73	68
	B=500	50	53
	B=600	35	42

※L2m・3mの組合せを基本とします。



## 支柱固定方法

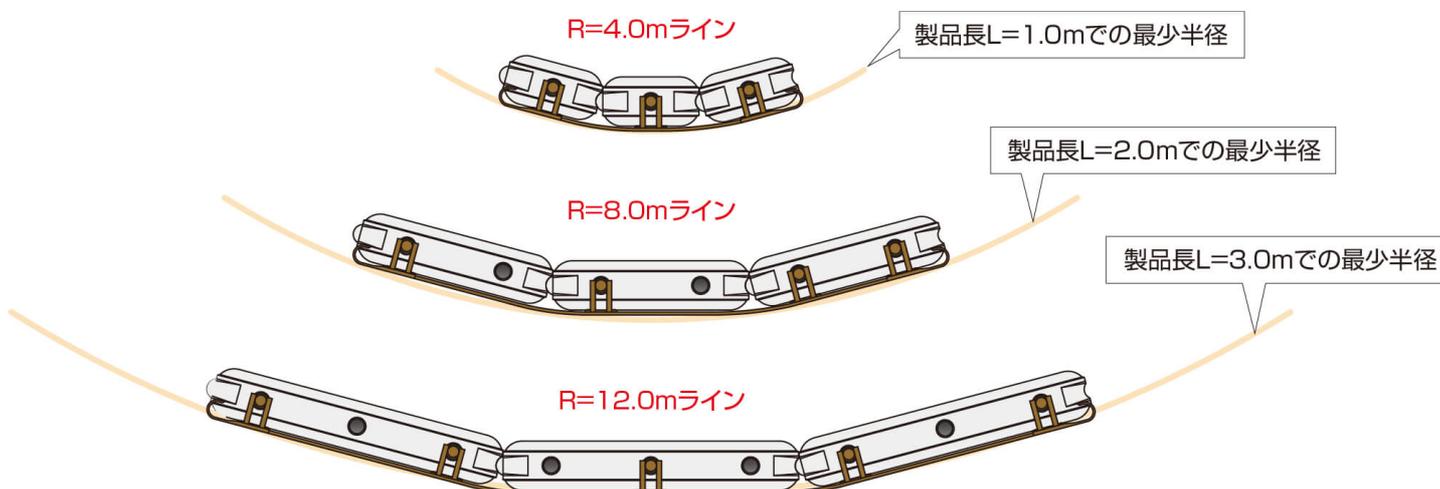
●砂詰め充填にて支柱建込をします。



10箇所当り

支柱径 (mm)	アスファルト又はモルタル (m3)	砂 (m3)
φ 60.4 (P種)	0.082	0.246
φ 114.3 (B・C種)	0.04	0.119
φ 139.8 (A種)	0.02	0.059

## 曲線部施工



【内アールの場合】 製品幅分だけ最少半径が小さくできます。アールに配置する場合は、ガードレールのレール長さが変化します。

